

Rotary club Rotary

YACHIYO 週報

第2445回
2017年9月8日



八千代ロータリークラブ
CLUB NO.15070



ロータリー：
変化をもたらす

2017-18年度 国際ロータリーテーマ
Rotary : Making A Difference
地区活動方針 「理念と実践 ～ Think Next ～」

2017-18年度 クラブテーマ
「ロータリー 頑張らないで リラックス」

The Four-Way Test

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

今回例会行事

テーマ：人生は運と巡り合わせ
卓話者：上代 修二 会員
担当：雑誌・クラブ広報委員会

9月15日 2446回 例会行事

テーマ：クラブ協議会
卓話者：
担当：会長・幹事



◆◆◆◆ 2444回例会 ◆◆◆◆

2017/ 9/ 1

司会 渡邊 敏美

「君が代」 「奉仕の理想」 斉唱

お客様

交換学生 フェルディナンド ロマーノ君

◆◆◆◆ 会長挨拶 ◆◆◆◆

会長 橋本 幹雄



会長は、例会においてロータリーについて話をするようになっております。ロータリーは何ぞやと云えば、直近の規定審議会により『ロータリーとは奉仕をする団体である』と規定されるようになりました。

そこで本日は、これに関連してお亡くなりになった永六輔さんの話をしたいと思います。永さんについて、その娘さんである永麻里さんがエッセイの中で語っております。

永さんは、浅草で江戸時代から続く寺の次男として生まれ、生粋の『江戸っ子』でありました。永さんにとっての『江戸っ子らしさ』とは、それは「恥ずかしい」と云う気持ち、「照れ」とか「はにかみ」に象徴される心情であった。江戸っ子は、恥ずかしい気持ちが強いからこそ『粋』に繋がるのだとよく云っていたそうです。

善い行いをするのも、誰かを喜ばせるのも「はい、私がこんなことをしてあげますよ」と云うのは、『野暮』の骨頂。そっとさりげなくやって、「あ、こんなことをしてくれたんだ」と気付いた人がお礼を云おうと思ったときには、もう立ち去っているくらいが『粋』

なのだ。と云っていたようです。また、それを実行しておりました。ですから、「私がこんなことをしてやっているんだ」と人に強要するなんて、『恥ずかしい』の極みだと云うことになります。

ロータリーは、奉仕をする団体であると言うけれど、善いことをするのに反対することは難しいもので、基本的には誰も反対などしないでしょう。善いことを行うにも、その仕方やその人格の如何など、ましてや、その心情をもう一度見直す必要があるのではないのでしょうか。

私どもが褒められるために、表彰をされるために、善いことをする、例えば寄付をするとしたならば、まさに本末転倒と云えるのではないのでしょうか。私は、近年、日本人はこの『恥ずかしい』と云う心情が無くなっているような気がしてなりません。人の話に耳を貸さず、自己主張ばかりする言動に羞恥のかけらもない人が多くなってきています。

私は、ロータリーは政治と宗教の話はなるべくしないとあるように、宗教と奉仕（サービス）は、人に強要してはいけないと思っております。この二つには、共通の考えさせられる点があります。善いこと（奉仕？）を行っている人は、自分たちのやっていることは善いことであり正しいことである。だから、他の人もその正しいことは理解できるでしょう。それをやらないのはおかしいじゃないかと恰（あたか）正論もどきを振りかざし、本人も自覚しないままに、いつしか他の人に強要している落とし穴（陥穽）に陥ることがまま見受けられることであります。人の迷惑かえりみず自己チューに陥るとしたら如何なものでしょうか。それさえも、気付かないとしたら何のための奉仕なのでしょう。

「正論必ずしも正しからず」この世の中、正しいことが全て受け入れられるとは限らないことを私たちは自覚しなければいけないのではないのでしょうか。奉仕の本質が正しいとしても、それをを行う方法はいろいろあり、それを選択するのは私たち、または相手方、一人一人の選択にかかっているのではないのでしょうか。その人が心の底からそれをしたいと思うなら、自分自身の全責任でやればいい事であり、やるからには『やらせて頂く』と云う謙虚な心情が必要なのではないかと思います。目的成就是誰のためなのか、強引な手法はその本質をゆがめ、結果、人は離れていくのではないのでしょうか。

私たちは、永さんの云う『恥ずかしい』心情から『粹』に繋がる道筋をもう一度じっくり考えてみる必要があるのかもしれない。

「正統と主張し、大義名分をうたい文句にしても、それだけでは人々はついてこない」

◆◆◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆◆◆

幹事 三井 啓久



活動計画書裏表紙の例会場の場所等に誤りがございました。訂正シールを作成しましたので貼付をお願い致します。

他クラブ 9月例会日変更のお知らせ

- ・習志野RC 変更なし
- ・習志野中央RC 28日夜間移動例会(18:30～池田屋)
- ・佐倉RC 7日ガバナー補佐公式訪問 21日夜間例会 28日ガバナー公式訪問 (四街道RCと合同ウイシュトンホテル・ユーカリ)
- ・八千代中央RC 5日アクア2F会議室にて開催 19日休会 26日夜間家族例会 (東京湾屋形船)

新しいロータリーの出版物があるようですので、ご希望の方はお声掛け下さい。

今年は純増4名の新入会員を目標としております。手順については、

- ①推薦書にわかる情報を記載し理事会に提出 (職業必須)。
- ②理事会での承認後、対象者の方に交渉。
- ③ご本人が入会を希望する事の意味確認後、全会員に回覧。

10月20日はガバナー公式訪問です。ウイシュトンホテル・ユーカリにて八千代中央RCと合同開催となります。会長によるクラブ運営方針、委員長による計画の発表、ガバナーからの講評等が予定されています。例会後の協議会にも参加頂きますよう、調整をお願い致します。

佐倉RCから活動計画書が届きましたので回覧します。

◆◆◆◆◆ お客様挨拶 ◆◆◆◆◆

交換学生 フェルディナンド ロマーノ君



みなさんこんにちは。私は8月23日に日本に来ました。日本に来た時から、ロータリークラブの方々が沢山助けてくれました。私は2つ言いたい事があります。1つ目はホストファミリーの田村さんにありがとうと言いたいです。田村さんは完璧です。2つ目は八千代ロータリークラブの方々にありがとうと言いたいです。八千代ロータリークラブは素晴らしい方々でなっていて、素晴らしいクラブです。今日から学校が始まりました。早く日本語がうまくなりたいと思っています。ありがとうございました。

◆◆◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆◆◆

青少年奉仕委員会 委員長 中村 賢治

8月29日、交換学生の田村一真君がイタリアに出发しました。沢山の会員の方にお見送りに来て頂き、ありがとうございました。無事に到着したそうです。



本部から、交換学生募集の案内が来ています。2018年度分の締切が9月9日です。以降は2018年度扱いとなります。

雑誌・クラブ広報委員会 副委員長 市原 正男
1か月待ちに待った方もおられると思います。お手元に配布しましたロータリーの友からご紹介します。9ページ クラブを訪ねてより

東京中央RCは、210名の会員がおられますが、今でも女性メンバーは在籍しないそうです。創立15周年の時に女性会員について議論の上、東京中央新ロータリークラブという女性だけの子クラブを作ったそうです。こちらは49名中40名が女性で、色々な活動をされている事が紹介されています。今年の会長は成田ゆめ牧場の秋葉さんですので、是非ご覧ください。

出席委員会 委員長 江口 茂勇

本日の出席率：出席対象者49名 出席者43名 出席率87.76%

故白川会員のお孫さんである、角田夏実さんが今年の柔道世界選手権52キロ級で準優勝されました。来年の日本選手権で勝利すればオリンピックに出場できるそうです。

◆◆◆◆◆ お祝い ◆◆◆◆◆

本人誕生日：上代 修二会員
夫人誕生日：栗原 正子様（栗原 稔会員）
植村 よし江様（植村 正徳会員）

◆◆◆◆◆ 例会行事 ◆◆◆◆◆

クラブ会報委員会 副委員長 安宅 照男
今日は安江会員に卓話をお願いしております。会員の方で株をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、是非ご期待下さい。



テーマ：私の生い立ちと今後の相場見通しについて

卓話者：安江 啓



岐阜県中津川市について

私の生まれは岐阜県の中津川市です。岐阜県の南東部に位置する市で、人口が約8万人で長野県に隣接しており、古くより木曾谷や伊那谷など長野県側との関係がありましたが、最近は名古屋など中京圏との関係が強くなってきています。市内に断層が縦横に走っているため山地が多く、木曾川に流れ込む河川はどれも小規模ですが清流です。中津川には中津川という川があり、中津川を中心とした扇状地になります。夏休みには川泳ぎやキャンプや釣りなど地元の子供には娯楽の全てでした。木曾川水系においても水の綺麗さの点では有数の地であります。

中津川市は中山道の宿場町であり、小説家「島崎藤村」の出身地である馬籠・妻籠宿も平成の市町村合併で現在は中津川市になっています。中津川は栗の産地として知られており、栗きんとんという栗を潰して茶巾で絞った和菓子が有名です。販売される時期が決まっていて、ちょうど今日の9月1日が毎年栗きんとんの発売の日になります。

「前田青邨」という画家をご存知でしょうか？1977年に亡くなっていますが、中津川出身の画家で文化勲章を受章するなど、画壇・日本美術院展を代表する長年活躍された画家です。青邨は関東に住んでいましたが、戦火が激しくなり出身地である中津川に疎開することとなりその疎開先が、私の実家の安江家だったのです。滞在した期間は1年にも満たなかったようですが、滞在のお礼ということで実家の近くにある観音像の画が青邨氏から我が家に送られ、今でも家宝として大切にしております。

安江家について

私は安江家の長男として昭和53年に生まれました。安江という苗字はこの辺りでは珍しいと思いますが、岐阜県の東濃地方と言われる地域には、割と多い苗字です。父親は私が生まれた当時、三菱電機の下請け企業でサラリーマンをしていました。母親は専業主婦ですが、昔は看護師として病院に勤務していました。兄弟は年子の次男と5歳下の弟で男三人兄弟です。小学校の校長をしていた祖父を合わせて6人家族で、母親が女性のみで男家族の中で育ちました。

幼少期の出来事として私が3歳の時、私自身が生死をさまようことがありました。10月の稲刈りの時期でしたが、家族総出で稲刈りをしていた時に、私が私の家の庭にある小さな池に落ちた事です。数分間のことだったようですが、発見時は意識不明でどさえもんになるころでした。運が良かったのは発見が早かったことと、母親が看護婦をしていた経験があり、応急処置も的確であったとのこと。救急車で運ばれ数日間入院し、今のところ特に後遺症も残っておりません。当時の地元紙にこの事故が掲載され、当時の新聞の切り抜きが今でも実家に保管されています。

小学生

小学校は地元の公立小学校で、中津川市立南小学校という学校に通っていました。どんな子だったかというと、いわゆる学級委員タイプで小学校3年生から学級の代表をかなりの確率でしていたことを記憶しています。6年生の時は小学校の児童会長をしていました。

小学校時代の友達関係は、特定の友人というよりも不特定多数の誰とでも仲良く遊ぶことが出来たと記憶しています。特に仲が良かったのは自宅が近所の友人で、登下校をともにしたり、時にはお互いの家を行き来し泊まりに行ったりしていました。

中学時代

続いて中学時代ですが、地元の中津川市立第二中学校という学校に通っていました。

中学に入学し一番うれしかったことは、念願の野球部に入部出来たことです。しかし、部員のほとんどが小学生でクラブチームに入っており、私自身運動神経は悪くないと思っていましたが、中学から野球を始めたとの差は歴然としていました。1年生2年生とももちろん補欠で試合に出ることは一度もありませんでした。

た。しかしながら、努力の甲斐があったのか運が回ってきたのか、3年目にはレギュラーになることが出来ました。

高校生

高校も地元の県立高校で岐阜県立中津高校という高校に通いました。この辺りの高校や都心の高校などは、学力によって高校が分かれているかと思いますが、もちろん私の地元もそうですが、高校自体の数が少ないこともあり、東大に行く人もいる一方、高卒で就職する人もおり学力だけではなく、地元の色んな人が集まっている高校でした。

部活は中学になってやっと始められた野球部に入ったのだろうと、思われると思いますが、実は野球部には入らずテニス部に入部しました。理由は私の良くないところなのですが、熱しやすく冷めやすい要するに飽きっぽい性格が出てしまいました。

大学生

大学時代は基本的に楽しい思い出がなく、はっきり言って勉強はほとんどせず、冬はスキーで夏は大学時に始めた登山で、それ以外は麻雀漬けとバイト生活で今思うと、親不孝な大学生だったと思います。冬は長野オリンピックのスキー会場となった、八方尾根スキー場で住み込みのバイトをしていました。登山については北アルプスを中心に、穂高岳や槍ヶ岳に毎年のように登っていました。

アルバイトについては色々なことをしました。4年間続けた焼鳥屋のバイトを中心に、単発や期間限定のバイトなど恐らく10種類以上は経験しました。特に印象に残るバイトは不動産会社のバイトでした。これは期間限定でしたが、新入学生に対して学生向けの部屋を案内する仕事です。学生向けの部屋は、学校の生協のあっせんや、大学の近くの不動産会社がほぼ独占状態でしたが、私が雇われた不動産屋は大学から離れており、営業をかけないと契約が取れないため、学生を雇っていました。

同級生何人かと一緒にバイトをしましたが、完全出来高制で礼金の何割かのバックでした。お金を目的にそのバイトをしたのですが、全く知らない赤の他人に自分がアプローチをかけることでお客様がその気になり契約していただいたとき、なんとも言えないうれしさややりがいを感じました。また、どういう差があっ

たか分かりませんが、同級生数人の中で私の営業成績があたま一つ抜けていて、それを不動産会社のオーナーからほめていただいたこともとても嬉しかったです。大学を卒業し何をやりたいかが明確にありませんでしたが、そのバイトを経験し営業職に興味を持ったきっかけとなりました。

就職

大学4年生になり、就職活動をする時期になりました。学生時代バイトとサークルと麻雀に明け暮れて、その時期になるまで自分が何をやりたいかなどはあまり考えていませんでした。私が就職した2001年はいわゆる就職氷河期の時期で有効求人倍率が1倍を割り込んでいました。正直現役でどこか内定が出たらいいなという程度で、幅広い業種と会社の面接を受けていました。そんな中で証券会社を受けた理由が今思い返すと3つあったと思います。

1. 金融ビックバンということで、「貯蓄から投資」「間接金融から直接金融」の流れ
2. 学生時代不動産会社のバイトで営業のやりがいの一端を知ることが出来たこと
3. 学校の先生であった祖父が株好きで、毎日のように短波放送を聞いており馴染みがあったこと。あるとき祖父が株を買う理由として、教え子が就職した会社の株を買い、陰ながら応援しているという話を聞き興味を持ちました。

証券会社は複数の会社を受け、特に理由はありませんでしたが、実家の隣町に岡三証券の支店があり、なんとなく昔から知っていたということで岡三証券に内定をもらい入社しました。

配属

3カ月ほど座学の知識研修を受けた後、創業の地である三重県の松阪支店に配属となりました。三重と岐阜は隣の県ですが、私は就職して初めて三重県に行きました。縁もゆかりも無く、会社の同僚のみが知り合いです。証券会社の新入社員というと、皆様もなんとなく想像がつくと思いますが、配属されると机の上に名刺と営業カバンが置いてあり、特に何かを教えてくださいとなく、外交に出た記憶があります。

当然ですが、なかなかお客様も出来ず、就職先を間違ったかな、辞めたいなと何度となく思いました。しかしながら、捨てる神あれば拾う神ありで、自分の事

◆◆◆ ニコニコBOX (¥16,000) ◆◆◆

上代 修二：9月2日誕生日です。67才です。
 栗原 稔：安江様卓話楽しみにしております。
 風間 茂：安江会員卓話楽しみにしています。
 安宅 照男：安江会員卓話宜しくお願いたします。
 大中 宏道：安江会員卓話楽しみにしています。
 松戸 英雄：安江さん卓話楽しみにしています。
 江頭 泰利：安江さんの卓話楽しみにしています。
 君塚 欣哉：安江会員卓話宜しくお願いたします。
 嶋田 陽一：安江さん卓話楽しみにしています！
 石渡誠太郎：前回欠席しました。
 菊川 秀明：2回欠席しました。
 杉 晟：安江さん卓話楽しみです。

き、ありがとうございました。無事にホ
 ストファミリーの家へ着いたそうです。
 フェルディナンド君が来て1週間が過ぎ
 ました。楽しく過ごしているように見え
 ます。

櫻井 豊：安江会員卓話楽しみです。
 上代 修二：安江会員卓話楽しみにしています。
 福田 良博：安江会員卓話楽しみです。
 齊藤 昌宏：安江さん卓話たのしみです。
 中島 貞好：安江会員卓話よろしくお願ひします。
 朝戸 健夫：安江会員、卓話よろしくお願ひします！
 永田 勝久：安江さん卓話楽しみです。
 江口 茂勇：安江さん、卓話楽しみにしております。
 鈴木 利雄：安江会員卓話楽しみです。
 杉山 智基：安江会員卓話楽しみです。
 三井 啓久：安江さん卓話楽しみにしています。フェ
 ルディナンド君いよいよですね！

◆◆◆ 友愛BOX (¥31,000) ◆◆◆

植村 正徳：きれいなお花ありがとう御座居ました。
 それなりのしわがふえました。
 安江 啓：本日卓話を担当します。昨日はほとんど
 寝てません。
 中村 賢治：・8月29日田村一真君がイタリアへ旅立
 ちました。お見送りに来て頂いた会員の
 みな様ありがとうございました。
 ・安江会員卓話よろしくお願ひします。
 ・本日早退です。
 栗原 稔：妻の誕生祝の綺麗な花ありがとうございました
 ました。
 田村 隆治：一真の見送りに多くの方がお越しいただ

橋本 幹雄：安江会員卓話宜しくお願ひします。
 渡邊 敏美：大分涼しくなりました。秋の気配です。
 葉山 哲夫：遅刻Sorry。
 佐野 忠信：9月23日土曜日16時国立能楽堂で『田村』
 を全曲(約40分)無本で独謡します。是
 非、観に来て下さい。
 稲山 雅治：フェルディナンド君ようこそ。安江さん
 卓話楽しみにしています。
 宮野 宗雄：安江さん卓話楽しみにしております。

◆2017年9月のロータリーレート=109円

近隣クラブ例会日		例会場		
火曜日	四街道R.C	(四街道ゴルフクラブ)		
火曜日	八千代中央R.C	(ウイシュトンホテル・ユーカリ)		
水曜日	習志野R.C	(習志野商工会議所会館)		
水曜日	佐倉中央R.C	(ウイシュトンホテル・ユーカリ)		
木曜日	佐倉R.C	(フランス料理・シェ・ムラ)		
木曜日	習志野中央R.C	(習志野商工会議所会館)		
例会出席率 ※欠席の時は必ず前日までに出席委員長に連絡して下さい。				
	会員総数	出席対象者	出席	%
9/1	51	49	43	87.76

■出席委員長 江口 茂勇
 携 帯:090-3133-0839 TEL:047-487-1085
 FAX:047-485-5567

■例会日 金曜日 12:30 ~ 13:30

■例会場 パッソノヴィータ(〒276-0049 八千代市緑が丘1-1-1 公園都市プラザ1F FAX:047-450-0050)

靴が鳴る

作詞 清水かつら/作曲 弘田龍太郎
 お手 つないで 野道を ゆけば
 みんな かわい ことりに なって
 唄を うたえば くつが なる
 晴れた み空に くつが なる

※大正8年9月19日に作られ、それまでの堅い文部省唱歌に対し、
 この曲の明るさは大変喜ばれました。

■クラブ会報委員会
 委員長:大中 宏道 副委員長:安宅 照男

TEL:047-459-5806